

「木岡哲学対話の会」アンケート

2023年度「総括討議」（2024.1.7）に向けて、ご意見を伺います（一覧表参照）。

1 各9回の「哲学対話」「哲学講話」をつうじて、特に印象に残ったテーマ・内容があれば、次の順に説明してください（複数回答可）。

① テーマ・内容

② 印象に残った点、その理由

2 1に挙げた以外で、興味を惹かれたテーマや話題について、具体的に質問・意見を記してください。

① テーマ

② 質問・意見（箇条書きをお願いします）

3 2024年度の「木岡哲学対話の会」開催に向けて、運営の方式や内容その他について、要望・意見を自由に挙げてください。

「木岡哲学対話の会」2023年度 内容一覧

	哲学対話（発表者・テーマ）	哲学講話（テーマ）	備考
第1回（3.5）	吉本十茂子《高齢者の食》 宮原秀彦《高齢者・障がい者の居場所づくり》	《「考える」ということ》 （オリエンテーション）	講話では、PPK（ピンピンコロリ）を話題に取り上げた。
第2回（4.2）	船曳秀隆《寄り添う力》	「〈あいだ〉を考える」	以降の「講話」4回は、「風土学入門」。
第3回（5.7）	《あいだを閉ざすカベ》（発表なし、動画の映写あり）	「〈縁〉を結ぶ」	動画は「高次脳機能障がい」の報告。
第4回（6.4）	土肥 剛《メディア・リテラシーについて》	「〈出会い〉のドラマ」	
第5回（7.2）	《多様化はなぜ何のために》 （発表なし）	「〈かたち〉が意味するもの」	二種の新聞記事が、「対話」の資料。
第6回（9.3）	土屋隆生《「民主主義」再考——権威主義との比較において》	「戦争」について（1） 「戦争と風土学」	「活動報告」（宮原秀彦）を含む。
第 7 回 （10.1）	全体討論（前回の続き）	「戦争」について（2） 「国家の論理」（上）	前回不足した対話の継続発展
第8回 （11.12）	丘 政彦《「沈黙を破る」ということ》	「戦争」について（3） 「国家の論理」（下）	「対話」でDVDを使用
第 9 回 （12.3）	口ノ町一男《デジタル雑感》	「戦争」について（4） 「〈あいだ〉に立つ」	終了後に「忘年会」
第 1 0 回 （1.7）	総括討議		前後期計10回の内容を振り返る。

- ・「木岡哲学対話の会」は、関大在職中の2019年に立ち上げ、民間施設やアパートを会場として、月1回ないし2回のペースで開催してきた。アパート退去後の本年3月から、大阪駅前第三ビルを拠点に活動している。
- ・開催は月1回（第一日曜）、2月・8月を除き、年10回。各回3時間（13－16時）。
- ・会は三部構成——1) 哲学講話、2) 哲学対話、3) その他（何でも相談）。特別のトピックがない場合、3は割愛する。
- ・「哲学講話」は、主宰者の選んだテーマによる「講話」と全員での「対話」、各30分、計1時間を基本とする。本年度前半は、風土学の基本概念を取り上げる「風土学入門」のシリーズ。後半は、参加者のリクエストによる「戦争について」のシリーズ。
- ・「哲学対話」は、参加者からテーマ・発表を募り、「発表」と「対話」、計1時間を基本とする。発表希望者の出ないテーマについては、配布資料や事例報告をもとに、全員で討論する。
- ・2024年度も本年度と同じ要領で開催するが、内容は未定。